



# 輝け！北っ子

令和2年2月10日発行

2月号

発行責任者 紺野 宗作

## 子どもの輝く未来に向けて

**社会が変わる → 学びが変わる → 学校が変わる**

今の子ども達が社会を担う20年後には、少子高齢化やグローバル化が今以上に進みます。

A1に置き換えられない人間ならではの力、想像力や行動力、言語や文化が違って協力し合って社会を支えていく必要があります。2020年4月から「新学習指導要領」が完全実施されます。その背景には、社会が急激に変化するA1時代に活躍できる人材の育成が急務だからです。

これからの教育で重視されるのは、「思考力・判断力・表現力」の育成です。これらの力は、様々な問題を解決するために必要な力だからです。「知識や技能」を習得することはもちろん大事ですが、知識を詰め込むような教育から脱却していく必要があります。授業の中では「なぜ○○なんだろう」「どうしたら○○ができるんだろう」といった「問い」を立て、それを解決していく授業が求められます。本校でも授業参観でご覧にいただいているように、「問い」を解決するために、ペアやグループで意見を出し合う授業を推進しているところです。子どもが主体的に考え、周囲の仲間と一緒に考えて考えを深め合うことで「思考力・判断力・表現力」を高めていきます。

### 外国語（英語）が本格的にスタート

グローバル化が進むと、多様な人々と関わりながら生きていくことが当たり前になります。そのためにも、英語によるコミュニケーション能力の育成は必要です。早くから英語にたくさんふれることで、英語を生きた言葉として使えるようにすることが大切です。本校でも、一昨年より、英語学習は一部先行して実践しており、担任とALTが連携して楽しく英語学習が展開されています。

2020年4月からは、3、4年生では、週1コマ、5、6年生では、週2コマ教科として英語が位置付けられます。しかし、英語学習が本格化することで学校として頭が痛い問題があります。それは、他の学習内容が減らず、英語学習が付け加えられて増えるということです。したがって、来年度、高学年は週4日が6校時となり、子ども達の下校も4時過ぎとなってしまいます。このことは、放課後における活動が制限され、これまで以上に鼓笛や部活動などの時間がとれなくなるのは確実な状況です。

### プログラミング教育が始まる

「○○がしたい」という目的に向かって、手立てを分解し、手順を試行錯誤しながら目的を達成すること。これがプログラミング思考です。A1などが発達していくこれからの時代をたくましく生きていくためには、小学校からプログラミング思考を身につけ、情報技術を活用できるようにしていくことが求められます。そのため、本校でも、来年度から総合的な学習の時間の中で、コンピュータを活用しながら複雑な課題を解決する授業をスタートさせ、国語や算数などの教科の指導に広げていく予定です。しかし、ここでも学校として頭が痛い問題があります。それは、プログラミング教育をほとんどの教員がやったことがないことです。子ども達が来たるべきA1時代に対応できるように、プログラミング教育に関する教員の研修を本気になって進める必要があります。

## ふるさと教育の推進

少子高齢化社会を迎え、ふるさと二本松の先人や郷土の歴史、自然や伝統、産業などを学ぶことに加え、地域への積極的な参加や行動する体験を充実し、ふるさと二本松に誇りを持ち、新たな活力を生み出す人材の育成を目指す必要があります。全国学力・状況調査のアンケートでは、「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の質問に「当てはまる」と答えた本校児童は、県38.6%に対して51.4%と大きく上回っています。しかし、「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか？」の質問には、県20.0%に対して、本校10.0%と約半分と低い状況です。本校では、下記の方針のもと「ふるさと教育」を推進していきます。

(1) ふるさと二本松の将来を考える教育の推進の視点

- ・ふるさと二本松の先人の生き方を学び、自らの将来を考える教育
- ・地域の人材を活用した「ゲストティーチャー」による授業
- ・地域の商店街・企業・各種事業所との交流機会の拡充

(2) 人とのつながりを重視し、お互いを尊重する心を育てる教育の推進の視点

- ・二本松の歴史や先人から学ぶ道徳教育
- ・身近な体験から環境や伝統文化の大切さを学ぶ学習
- ・地域の人材・資源を活用した体験学習

## 豊かなスポーツライフの実現に向けて

子どもがたくましく生きていくためには、なんと言っても「健康と体力」が備わっていなければなりません。そのためには、生涯にわたって自ら主体的に健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質や能力を育成する学校体育が求められています。これまで行ってきた競争型を中心とした体育ではなく、運動についての自己の課題を見つけて、進んで運動に取り組めるような体育に転換する必要があります。本校では、持久走大会を今年度も「学校へ行こう週間」で参観いただいたように自己の目標を設定しどれだけ伸びたかを記録し練習の成果を確かめるスタイルに改めています。水泳学習も同様で、今回の新学習指導要領では、泳ぐ速さを競わせるのではなく「呼吸に合わせて長く泳ぐこと」が内容として示されています。

## 来年度の行事改革について

これまで述べてきたように、これから社会は大きく変わっていきます。その担い手となる今の子ども達には、その時代をたくましく生きていくための力をつける教育が必要です。そのためには、前例踏襲から脱却し学校も大きな変革が問われています。そして、2020年4月からスタートする新学習指導要領。その実現のため、これまでやってきたことを見直し子どもたちの輝く未来に向けた教育内容に変えていく必要があります。これまで二本松市の校長会でも複数回、校内でもそれを上回る時間を費やし、どうあるべきか慎重に協議してきました。その結果、来年度は、鼓笛と水泳大会について下記のとおりといたしましたのでご理解とご協力のほどをお願いいたします。

### 二本松市鼓笛パレードの廃止

\*本校では、これまでの演奏曲を減らし、運動会時に鼓笛を披露します。

### 二本松市水泳大会の廃止

\*本校では、1学期末に各学年ごとの「水泳学習を参観する日」を設けます。なお、天候不順等で7月に実施できないときは、2学期に行います。